



〔拡大版〕

比井小学校



内原小学校



美味しいお米になあれ

ー比井小・内原小・田植えー

6月1日(月)、比井小学校(玉置雅己校長)の2年生と5年生の児童ら16人が、近所の農家の方6人の協力のもと、田植えに挑戦しました。

学校北の水田(2.5畝)に集まった児童らは、農家の方から田植えの説明を受けたあと、「ぬるぬるする〜」「歩きにくい〜」と声を上げながら田んぼに入り、一列に並んで苗を植えました。

田植えに初挑戦の松本萌依さんは、「難しいけど、植えるのが楽しいです。収穫して、食べるのが楽しみです」と話していました。

田植えは毎年この時期に実施していて、例年どおりであれば、秋には2俵あまりのキヌヒカリが収穫できる予定で、町社会福祉協議会へ寄贈するほか、比井小祭でカレーライスにして地元の方に振る舞うそうです。

6月8日(月)には、内原小学校(山口謙校長)でも田植えが行われ、近所の農家の方6人の協力のもと、5年生児童ら43人が田植えに挑戦。苗の持ち方や植え方の説明を受けたあと水田に入り、どろんこになりながら苗を植えました。

植えたのはもち米で、秋にはおよそ2俵を収穫予定。12月に小学校で実施する餅つき大会で使用する予定です。

参加した小宮泰誠くんは「ぬめぬめしていて、ずぼっと入って気持ち悪かったです。お餅は大好きなので、餅つきをして、きなこやあんこで食べるのが楽しみです」と収穫を心待ちにしていました。

内原小学校でも毎年この時期に田植えを実施。田植えを行ったのは酒井精氏(高家)所有の水田(3畝)で、酒井氏は「子どもたちが農業に興味を持ってくれたらと思っています。子どもが来てくれることで、私たちもエネルギーをもらえます」と話していました。



おいしいジュースになあれ

—志賀小・梅ジュース作り—

6月16日(火)、志賀小学校(保田勉校長)で梅ジュース作り体験が実施され、2年生児童ら34人が梅ジュース作りに挑戦しました。

材料は梅と砂糖だけで、作り方は意外と簡単。児童らはまず、つまようじを使って梅にたくさん穴を開け、果汁が出やすいように下ごしらえ。大きなビンに梅と砂糖を交互に詰め込み、梅と砂糖を馴染ませたらできあがり。14日ほどで美味しいジュースになるそうです。

この梅ジュース作りは生活科の授業の一環。体験した濱口友くんは「梅に穴を開けるのが楽しかったです。完成したら、運動したあとの喉が渴いたときに飲みたいです」と楽しそうに話していました。

材料費は「わかやま食育推進総合対策」の事業として県が負担。授業を通して、県の特産物を知識としてだけでなく、体験を通して知ってもらうことが狙いです。今後、梅の他にも、県特産物の桃などを使った授業も実施されます。

おおきくなって帰ってきてね!

—ヒラメの稚魚放流—

6月4日(木)、内原小学校(山口謙校長)の5年生児童43人が産湯地区の海岸でヒラメの稚魚を放流しました。

比井崎漁協の主催で行われたこの放流体験では、児童らはまず比井崎漁村センターで日高振興局職員から、漁の種類や漁獲量の減少などについて説明を受け、資源管理の大切さを勉強。

その後、海岸に移動した児童らは、ヒラメの稚魚が入ったバケツを手に持ち、波打ち際で一列に並んで次々に稚魚を海に放流していました。

体験に参加した新野亜依さんは「水が冷たかったけど楽しかったです。魚料理は好きなので、ヒラメが大きくなって帰ってきたら、お刺身で食べたいです」と話していました。

この日放流した稚魚はおよそ3,000匹で、県栽培漁業センターで生まれたのち、比井崎漁協で8cm以上まで育てたもの。1年経つとおよそ30cmにまで育ち、刺し網漁業で漁獲されるそうです。

